

「香港中文大学サマープログラム（中国語コース）参加報告書」

京都大学経済学部・経済経営学科 2年 難波 礼

① 学習成果

今回の香港中文大学での中国語講義・アクティビティを経て、中国語は、特に日本人にとって発音練習に多分な時間を費やさなければならない言語であると感じた。本留学以前と比較すると、中国人留学生が多い日本の大学に通っているという環境を活かして積極的に中国人と会話し、発音の精度を高めようという意欲が高まったように私は自覚している。

また、平日の講義後の時間や休日に、香港内の様々な地域や中国南部を訪れ、香港文化・中国文化を肌で感じることができた。特に中国広州を訪れた際には、芳村という地域の中国茶市場で中国茶の茶葉や茶道具を視ることができ、更に中国茶の試飲をしつつ店主と中国語を用いて茶について会話することができた。この経験を通して日本文化と中国文化の共通点と相違点を身近に感じ、今後も中国内地への留学をも視野に入れて中国文化の実態を更に深く知りたいと思うようになった。

② 海外での経験

香港中文大学での中国語講義では日本人に限らず、欧州や韓国出身のクラスメイトと共に中国語・中国文化を学んだ。もちろん日本人も各々に様々な背景の中で参加しており、私は共通の体系化された知識を学ぶことであらゆる人との深いコミュニケーションが可能になり得るのだらうと思ひ、グローバル化した時代に外国語や外国文化を学ぶ意義を再確認した。

③ プログラム内容

香港中文大学サマープログラムは、中国語の学習進度別にクラス分けされ、私は中程度のクラスで講義を受けた。約3週間の講義の中で、会話・リスニング講義と文法講義を交互に受け、単語や類似単語の細かなニュアンスの違い、文法、文章読解、発音、会話練習など中国語の修得に必要な全ての要素をバランスよく、かつスピーディに学習することができた。

また、休日を利用して香港中文大学所属の学生の引率でマカオ・深圳へ赴くアクティビティや香港中文大学の学生とのスピーチ交流では、香港独特の政治・文化事情を深く知ることができた。

④ 進路への影響について

今回の留学を通して、更なる研鑽を積むことで中国語を使ってビジネスすることも可能だと感じ、そのためにHSKを受験しようと決意した。

特に、情報化社会の進展の中で、IT関連の進歩が甚だしい中国に対して日本企業が関わりを持つことは今後更に多くなっていくだろうと考えており、そのような機会があった際に積極的に自ら中国語を用いて活躍することができるようになりたいと思う。